

広域ドッジビーコンペティション

第2回 東海道大会 2019

**WIDE RANGE**  
**DODGEBEE** **COMPETITION**

大会報告書

2019年7月5日



日本ドッジビー協会

## 【大会の概要】

名 称	広域ドッジビーコンペティション 第2回 東海道大会 2019 2 <sup>nd</sup> Tokaidoh DODGEBEE Competition 2019
日 時	2019(令和1)年6月23日(日曜日) 9:00~17:30
場 所	浜松アリーナ 〒435-0016 浜松市東区和田町 808-1 TEL:053-461-1111
主 催	一般社団法人日本ドッジビー協会
後 援	静岡県 浜松市
協 力	一般社団法人愛知県フライングディスク協会 株式会社バンダイナムコエンターテインメント
協 賛	文化シャッター株式会社 / ワタミ株式会社 株式会社ミカサ / Pixo Aleiro(ピクサレイロ)

## 【来場者数】

選手競技者 (別紙、参加チーム一覧を参照)	=225 名
同伴保護者/観戦・応援者	=120 名
スタッフ・関係者	= 25 名
合計延べ人数	= 約 370 名

## 【参加賞の配布】

文化シャッター株式会社様 ご提供  
メモ・マウスパッド/団扇

ワタミ株式会社様 ご提供  
グループ共通お食事券(500円券)



リッツ バイクドチップス ソルト&ブラックペッパー ×2袋

【参加チーム一覧結果表】～別紙

【タイムスケジュール表】～別紙

大会【対戦結果表／一式】～別紙

### 【ディスクドッチ競技方法】

#### ●小学生部門 8チーム

予選：4チームで構成した2つのリーグで総当たり戦

決勝：各予選リーグの1位／2位の4チームが上位トーナメント戦へ進出  
各予選リーグの3位／4位の4チームがトーナメント戦へ進出して  
対戦することで、すべての順位を決定。

#### ●一般部門 8チーム

予選：4チームで構成した2つのリーグで総当たり戦

決勝：各予選リーグの1位／2位の4チームが上位トーナメント戦へ進出  
各予選リーグの3位／4位の4チームがトーナメント戦へ進出して  
対戦することで、すべての順位を決定。

### 【ゴールドドッチ競技方法】 4チーム

4チームによる総当たりリーグ戦をおこない、勝ち点制で順位を決定。

リーグ戦成績の1位と2位が決勝戦をおこなった。

### 【競技ルール】

基本的に日本ドッチビー協会制定の公式ルールでおこなう。

主催者決定事項として下記の通り、定めた。

#### ●レフリータイムアウト

本競技会のすべての試合において、万が一試合中のケガ、その他主審が必要  
と判断した時、主審によりタイムアウトを宣告できる。

その場合、タイムアウト時間を計測してロスタイムとして試合時間を延長  
します。さらに主審の状況判断によりケガをした選手が退場した場合、主審  
の指示に従い、退場選手のポジションへ交代選手を入れることができる。

## ●審判団

主審=1名、副審=1名、線審=2名、記録員=1名の5名が審判団を構成

- ・審判員は主催者が決定。
- ・審判員の判定に対するクレーム等は一切受付けない。
- ・審判員の判定結果は、如何なる場合でも覆らない。

## ●予選リーグ戦の順位決定

本大会すべての部門におけるリーグ戦の順位は以下の優先順で決定。

- 1)勝点の大きいチーム
- 2)得失点(総得点数マイナス総失点数)の大きいチーム
- 3)総得点数の多いチーム
- 4)総失点数の少ないチーム
- 5)直接対決での勝利チーム
- 6)ディスクフリップをおこない、権利を得たチーム を上位とする

本大会ルールとして以下項目を制定した。

### <ディスクドッジ／大会ルール>

- 試合時間： 予選リーグは全試合 前／後半 各=3分00秒。  
トーナメント戦は全試合 前／後半 各=3分30秒。
- 試合人数： 小学生部門=13名、一般部門=10名でおこなう。  
あらかじめ、不利となることを了承のうえ規程人数以下での  
対戦も成立する。
- 同点勝敗： 予選リーグは全試合、引分けとする。  
トーナメントは全試合、PT戦で決着。  
決勝戦のみ、3分1本通しの延長戦。

### <ゴールドッジ／大会ルール>

- 試合時間： 予選リーグは全試合 前／後半 各=6分00秒。  
ハーフタイムは70秒。
- 同点勝敗： 予選リーグは全試合、引分けとする。
- ◎決勝戦： 前／後半 各=8分00秒、ハーフタイムは120秒。  
同点の場合、5分1本通しの延長戦。

## 【ドッチディスタンス実施方法】

会場とスタッフ、またタイムスケジュールなど勘案した結果、本大会への参加総合計20チームについて、1チームあたり3名まで総合計60名を対象として実施。  
なお、希望者が3名に満たない、または参加しないことも自由とした。

### 実施手順

- ① 選抜選手は14:05～15:30までの約90分の間に空き時間を見つけて受付デスクでチーム名、氏名、性別、年齢(記録カテゴリー)を申告して、参加登録。
- ② 登録済み選手が順番に試投。  
一人あたり1分以内に3投 / 最長距離のみ計測 / 横幅制限は20m  
ディスクは公式ミカサ230・250・270を主催者が用意、3枚を自由選択可、

※日本記録の更新が以下の通り、5件ありました。

- |                |                 |        |
|----------------|-----------------|--------|
| 1、小学4年生 女子の部門  | 23.99 ➔ 26.61 ㊦ | 宮崎 有宇  |
| 2、小学6年生 女子の部門  | 29.03 ➔ 29.51 ㊦ | 柏原 ことみ |
| 3、高校3年生 女子の部門  | 17.00 ➔ 29.05 ㊦ | 江川 藍未  |
| 4、シニアダルト 女子の部門 | 21.69 ➔ 23.81 ㊦ | 臼井 安紀子 |
| 5、シニア 男子の部門    | 26.43 ➔ 27.16 ㊦ | 岡部 創太  |

後日、DBJA事務局より認定証が各自宅に送付されます。

## 【本件、お問合せ先】

一般社団法人日本ドッチビー協会

千代田区神田神保町 2-46-302

TEL : 03-3264-3626

FAX : 03-3264-3627

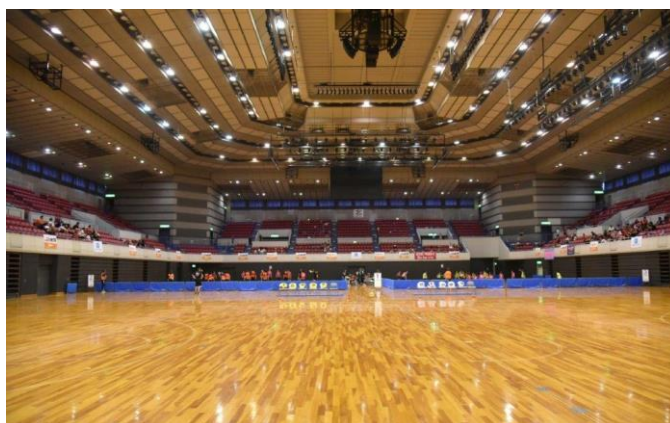
Mail : [support@dbja.jp](mailto:support@dbja.jp)





## 【講 評】

6月23日(日曜日)、広域シリーズとして今回で通算10回目の開催となる「広域ドッジビーコンペティション 第2回 東海道大会 2019」が浜松アリーナで開催されました。同会場はBリーグやFリーグの公式戦が行われる会場で、とにかく広い！



大会当日はメインアリーナにゴールドドッジのフルコート(20×40 畝)を一面つくり、さらにはディスクドッジコートを二面、さらに招集や大会本部スペースを設定しても、なお余裕ある施設です。

そのような広い会場ながら、今大会は20チーム、225人の選手となり他の広域大会から比較すると、こじんまりしたものとなりました。大会の公式競技自体は、チーム数が少ないこともあり、タイムスケジュールとしては余裕を持って組むことができたため、これも通常比較からすると、少数のスタッフによる運営・進行でしたが過去に例がないほどスムーズに進みました。



さらに付帯イベント的な実施でしたが、ドッジディスタンスも十分な時間を割いておこなうことができ、5人が日本記録を更新したことは、大きく印象に残りました。



今大会で良かった点としては地元、浜松市より小学生部門で2チーム、一般部門で1チーム、合計3チームの参加があったこと、さらには小学生部門の1チームは上位トーナメントに進出できたことで地元の皆さんより、とても楽しめた、出場してよかった。との感想が聞け、喜ばしいことでした。その他、入賞チームなど、大会の結果は別紙資料に詳細を記載いたします。



ちなみに前回、2015年3月開催の東海道大会では、36チーム452名の選手が集まりましたが、この時には東京／愛知から複数の招待チーム、および台湾からのゲストチームの参加があったこと。さらに確信とまでは言えませんが、前回開催は3月1日という時期で、卒業生にとっての最後をチームで遠征する大会に、というニーズが多くあったものと考えられます。



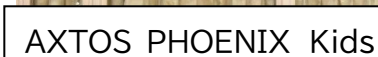
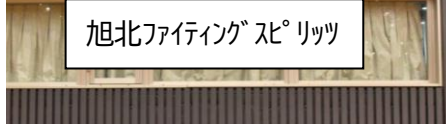
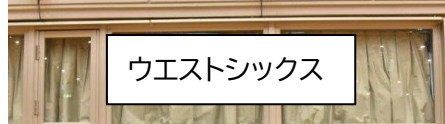
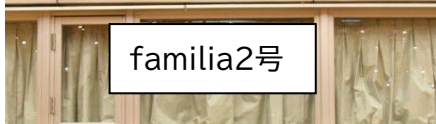
前回はそのようなプラス要因があったことを差し引いても、今回のチーム数の結果については事前の告知や開催時期の精査などいくつかの反省点もあり、原因を把握して今後につなげたいと思います。





さて、今回は初めての試みですが、先にご紹介した地元、浜松のチームだけではなく！  
全チームを写真でご紹介する報告書としてみました。

## 小学生TEAM





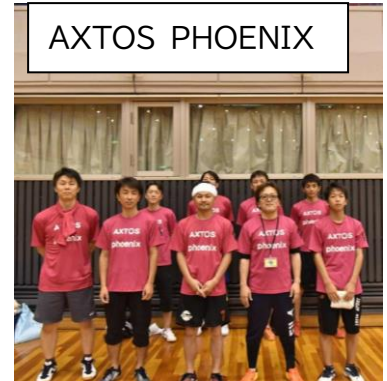
# 一般TEAM / GOAL DODGE TEAM



style



NDC ヤソップ



AXTOS PHOENIX



ASO



FKC



JDC



familia1号



イザナミ



今大会もスポンサー企業様、ならびに関係各位に多くのご協力を頂戴したことで大きな事故なく、無事に終了することができましたことを御礼申し上げます。ありがとうございました。

